和歌山大学 宇宙教育研究所
宇宙教育の目的と位置づけ

「宇宙」以外の題材でも実施可能

1 アニマルスピリットの育成　～ チャレンジできる人材育成 ～

a. 『達成すべき事柄』を提示し、『ステークホルダーとの間に生じると思われる問題点』『安全上の問題点』を教員と共に検証する。

b. 実施方法を自分で考えさせる（マニュアルを渡さない）。『何がわからない / 出来ない』のか、自分で見つけさせる（問題発見能力の育成）。

c. 必要な材料・実施環境も含めて自分達で調達。何を教員等に教わるべきなのか、自分達から尋ねさせる（問題解決能力育成）。

d. 計画発表・中間報告・最終報告を実施し、自分自身が『何を意図し、何を行い、何が行えなかったか。何を修正したのか』を意識させる。

2 実践的マネジメント教育　～ チームによる成功体験 ～

a. 『ハードスキル』：how toとしてのプロジェクトの管理手法を教える。

ex.プロセス管理、リスク管理、スケジュール管理、Vカーブの概念等

b. 『ソフトスキル』：プロジェクトチームの作り方を実践的に学ぶ。

ex.チームクライメイト、マネジメントスタイル、コミュニケーションスキル等

3 実践的宇宙関連技術教育　～ 宇宙開発固有の要素技術学習 ～

a. 『衛星系』『輸送系』『地上系』それぞれに固有の要素技術を学ぶ。

ex. 電源、通信、回路、データ処理、センサー、熱、構造、推進、姿勢制御他

b. 要素技術を組み合わせ実稼働させる『インテグレーション能力』を養う。

海外展開の意義

チーム内 / 競争による人脈形成
将来のビジネスパートナー育成
宇宙クラスタの形成
（アンカーテナンシー確保）

キャパシティービルディング
ハード/ソフトユーザの育成
ハードウェア標準の国際化
データ規格/処理標準の国際化